

令和2年度 沖縄県男女共同参画審議会 議事要旨

1 日 時：令和3年3月25日（木）10:15～12:00

2 場 所：沖縄県庁舎6階特別第2会議室

3 出席者：20名

（1）沖縄県男女共同参画審議会委員：14名

会 長	喜納	育江
副会長	銘苺	尚一郎
委 員	新垣	誠
委 員	鎌田	晋
委 員	銘苺	桂子
委 員	石川	京美
委 員	小那覇	涼子
委 員	金城	正光
委 員	桑江	貴英
委 員	新立	弘子
委 員	棚原	初美
委 員	前田	典男
委 員	金城	真知子
委 員	添石	理佐
委 員	平良	和

（2）沖縄県（女性力・平和推進課）：3名

榊原	千夏	子ども生活福祉部女性力・平和推進課長
漢那	歩	子ども生活福祉部女性力・平和推進課 男女共同参画班長
山城	清美	子ども生活福祉部女性力・平和推進課 男女共同参画班主査

（3）沖縄県（女性力・平和推進課マトリックス職員）：6名

祝嶺	浩之	子ども生活福祉部高齢者福祉介護課 在宅福祉班長
山川	大	子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課 母子福祉班（代理）
池田	和子	保健医療部地域保健課 母子保健班長
西田	公一	農林水産部営農支援課 営農担い手班長
神谷	栄一	商工労働部労働政策課 労政企画班班長
平良	みどり	教育庁県立学校教育課 指導主事
神村	智子	教育庁生涯学習振興課 社会教育主事

4 審議会次第

- ・ 委嘱状辞令交付式
- ・ 開会
- ・ 議事

（1）沖縄県の男女共同参画の状況について

（2）第5次沖縄県男女共同参画計画に係る取組状況について

- ・ 報告事項

- (1) 男女共同参画社会づくりに関する県民意識調査の概要について
- (2) 令和3年度沖縄県男女共同参画審議会の開催スケジュール

5 会議経過・内容等

【議事1】沖縄県の男女共同参画の状況について

- ・事務局より、「令和2年度沖縄県男女共同参画の状況」概要を説明。
- ・委員からの質問事項、意見について主なものは以下のとおりであった。

(喜納委員)

- ・県議会議員の女性割合が、これまで全国より高い水準で推移していたが、逆転してしまったのは残念である。「ている塾」などでリーダー育成などもやられているようだが。

(銘苅(桂)委員)

- ・M字カーブの30代での落ち込みが沖縄では見られない理由は何か。
→(事務局)要因について分析しているデータが無く、正確な回答ではないが、古くから共働き世帯が多かったことなどが関係していると思われる。
- ・正規雇用、非正規雇用の割合を教えて欲しい。
→(事務局)労働力調査によると、県内の非正規労働者の割合は男性が25.8%、女性が55.2%となっており、いずれも全国より高い割合である。
- ・男女の家事時間のデータについて、非常に興味深いがどのように調査しているのか、また最新のデータは無いのか。
→(事務局)総務省の全国調査(社会生活基本調査)から引用している。新しいデータは令和3年度に出る予定である。

(金城(真)委員)

- ・女性のロールモデルが必要であるのと、男性の働き方も変えていかなければならない。
- ・女性からは、家庭と仕事の両立でこんなに疲れているのに、もっと働けというのかという意見も聞く。
- ・管理職に占める女性の割合のデータなどがあるが、管理職として働いていなくても、フリーランスなどで自立して活躍している女性もいる。

【議事2】第5次沖縄県男女共同参画計画に係る取組状況について

- ・事務局より、「第5次沖縄県男女共同参画計画」(期間:H29~H33)の令和元年度における取組状況について説明を行った。
- ・委員からの質問事項、意見について主なものは以下のとおりであった。

(喜納委員)

- ・各分野とも、達成率がだいぶ高い割合になってきたという印象であるが、市町村との連携が少し難しいのかなという印象である。

(新垣委員)

- ・第5次の達成率の結果をふまえて、次は設定目標値の妥当性についても検討すべきである。

(鎌田委員)

- ・具体的事業の実施状況について、男性向け講座の実施はどのような内容のものを実施したのか。
→(事務局)おきなわ女性財団に委託し、令和元年度は「洗濯男子応援講座」

を開催した。定員数を大幅に上回る男性の受講があり、好評であった。内容は、汚れの落ちる仕組みや洗剤の選び方、アイロンのかけ方など。

(金城(正)委員)

- ・当初の目標値の設定について、疑問を感じるものがいくつかある。(ファミリーサポートセンター事業市町村数、乳がん、子宮頸がん受診率、シルバー人材センター会員数など)
- (事務局)当初設定した時点での数字であるので、担当課に御意見についてフィードバックするとともに、次期計画策定に活かしていきたい。

(平良委員)

- ・認可保育所定員数など、数値としては概ね達成しているが、現場の声としては、保育所の数は増えているけど保育士の数が不足しており、厳しい労働環境で離職者も多いと聞く。
- ・ファミリーサポートセンターも、お金が結構かかるなど、利用しやすさなどに課題があるのでは。

(桑江委員)

- ・男性の育児休業取得率は、目標値も低い。また、取得率だけでなく、どのぐらいの期間取得したのか、休んでもちゃんと家事・育児でどれぐらい働いているのかなど、数字の背景にあるものを見ていく必要がある。

【報告事項1】男女共同参画社会づくりに関する県民意識調査について

- ・事務局より、「男女共同参画社会づくりに関する県民意識調査」について、概要版の冊子をもとに説明を行った。
- ・委員からの質問事項、意見について主なものは以下のとおりであった。

(銘苅(桂)委員)

- ・産婦人科医として現場で感じる事として、若年妊娠の問題がある。ひとり親になったり、雇用が安定しない環境に身を置かざるを得ない実態などがあり、女性が生涯を通じて働くことを考えるのであれば、妊娠を主体的にコントロールする力や、暴力を受けた時にどうするか、またDVなどの暴力が絶対にいけない事であると教える事が重要である。男女共同参画は「教育」が非常に重要であると考えているが、先程の統計データ(資料1「沖縄県の男女共同参画の状況について」P24～「6. 教育」)などからもそれがよく見えてこない。

(棚原委員)

- ・(調査概要版5ページ)職場における男女の待遇では、概ね平等ということであるが、妊娠・出産などでキャリアに遅れが生じるということはないのか。
- (事務局)「賃金・昇進・昇格」や「人事配置」の項目で男性が優遇と感じる割合が比較的多いのは、ご指摘の妊娠・出産を機にキャリアの中断が生じている場合があるものと推測される。

(銘苅(尚)委員)

- ・企業の立場として、女性の登用や育成などに取り組んでいるが、どうしても家庭内での理解が得られないと、女性自身が仕事に前向きに取り組めないという現状がある。「家庭内での男女の働き方改革」が絶対必要である。コロナ禍という社会現象が、家庭内での男性の役割を変えるきっかけになり得る。

(全体としての事務局の回答)

- ・様々な立場からの大変貴重な意見をいただいたので、本日議論された内容は関係各課と情報を共有し、各施策に活かしていくことと、次年度の計画策定にお

いても、御意見を踏まえて検討していきたい。